

令和4年度 第1回高知県スポーツ振興県民会議  
地域スポーツ推進部会 議事要旨

日時: 令和4年7月7日(木) 13:30～15:30

場所: 高知県立文学館1階ホール

出席: 部会員 10名中8名が出席

議事:

- (1) 令和4年度スポーツ施策の進捗状況について
- (2) 第3期高知県スポーツ推進計画について

1 開会

2 議事

**(1) 令和4年度スポーツ施策の進捗状況について**

- 事務局から議事(1)を説明後、協議を行った。(部会員の発言は以下のとおり)

**(北村 部会員)**

○ 活力ある県づくりについて、今年度ジャパンサイクルリーグ高知大会を宿毛市で開催すると聞いている。最近、高知県にいる車いすマラソンの選手がハンドサイクルという競技を始めたところであり、障害者スポーツを知ってもらいきっかけにもなると思うので、可能であれば、大会の中でハンドサイクルも入れてほしい。

**(事務局)**

● 現在、ジャパンサイクルリーグの大会については、高知県で初めての開催ということもあり、まずは、そのプロリーグをしっかりと運営していく必要があるため、今からプラスアルファの取り組みを盛り込んでいくことはかなり難しい。ただ、ジャパンサイクルリーグの関係者の方は、地域地域でこの大会を開催することで、自転車競技やサイクリングの普及・発展に繋げて行くという思いも強く持っているので、来年度以降の取り組みの充実を見据え、可能性を関係者とも情報共有したうえで検討させていただきたい。

**(田井 部会員)**

○ 地域部活動について、他県では有識者が集まるフォーラムを実施している。学校自体がなぜ部活動の地域移行が必要なのかといったところが分かっていない部分もあるため、学校の先生等を集めたフォーラムを高知県でも実施してはどうか。

**(事務局)**

● 部活動の地域移行に関しては、スポーツ課も県の教育委員会と連携をして来年度からの段階的な移行に向けて準備をしているところ。地域移行に関しては色々な意見があると伺っているが、部活動は日本独特の文化ということで、これまでスポーツの振興や生涯スポーツや競技力の向上だけでない

く、教育的な意味についても大きな役割を果たしてきたので、それを地域に移行していくということに対して、賛否両論あることは最もだと思うが、学校だけではどうしても部活動が続けられないことや、市町村の事情も様々なので、この夏にすべての市町村を回り、ご意見を伺って、どのような形で進めて行くのが一番理想的なのか、しっかり地域の声を聴いて準備をしていきたいと思っている。当然、その中には保護者、生徒さんのご意見もお聞きしなければならないと思う。非常に課題も多いですが、しっかりと確実に前に進めなければいけないと思っている。

#### (公文 部会員)

○地域が部活動の受け皿になるという動きの中で、黒潮町では有志が集まり、どのように受け皿づくりをするのかを協議している競技団体もある。県が市町村へのヒアリングをするとのことで深くヒアリングしていただければと思う。また、運動部活動指導員の勤務時間は、1日の引率時間は7時間と定められている。郡部からでは移動時間もかかるため、黒潮町からであれば移動で往復4時間かかり、競技にかけられる時間が3時間しかないなど時間の制限がある。働き方改革の意味合いも強い事業と思いますので、活用しやすい幅を持たせた仕組みづくりを検討して欲しい。

#### (教育委員会)

●運動部活動指導員については、県の会計年度任用職員の規定で運用しているので、ご理解いただきたい。7時間を超えた場合は時間外手当の報酬ということで検討している。ご意見をいただいたものについて、前向きに検討している状況。

#### (川村 部会員)

○昨年度に運動部活動の在り方検討委員会より中体連に合同部活動の規定の見直し、拠点校部活動について課題の検討が出され理事会で対応を進めてきた。その最中にスポーツ庁の室長が高知県を訪問され保健体育課長とともに対応。令和5年度に全国中学校体育大会が四国で開催されるが同時に部活動の地域移行がはじまる。スポーツ庁からは今の大会出場規定であれば国の方針と合わないため支援が出来なくなる(補助金が出ない)。補助金が出なければ1億円近くの予算が必要で大会ができなくなるため、四国の教育委員会として意見書を日本中学校体育連盟に対して提出。あわせて、四国中体連からも日本中体連に意見書を提出。

○日本中体連としては、参加する選手・チームが公正・公平でなければならないことから、学校で活動する選手・チームと地域で活動している選手・チームで練習時間に差が出ないようにスポーツ庁のガイドラインに沿って実施していることが参加条件となった。高知県では市町村教育委員会から県中体連に地域移行した部活動であると申請があれば出場を認めるとなった。

○今後、希望する全ての子どもたちが活動出来る体制づくりを整えていきたい。地域格差や家計状況による格差などから活動できないことがないようにしたい。また、スポーツ庁へは地域移行を進めていくなかで、上手く部活動の移行ができなくなったなどが原因で、途中でまた学校に部活動を戻すことがないように伝えている。理由は、現在は部活動指導を希望して教員になった方も学校にいると思うが、将来的に学校には部活動をしたい教員が少なくなる可能性がある。そうすると、子どもたちの活動の場が失われる。

○活動の場となる地域の受け皿は重要である。そのほか、県西部の地域でバドミントンの外部指導し

ている方からは、今は学校の教員が責任者でいてくれるから技術指導ができる。今後全ての責任が指導者にかかるとなると関われないという意見もあることから、指導者の確保等も含め様々な課題があると考えている。

#### (島崎 部会員)

- 先日、スポーツ推進委員の全国総会に参加した。スポーツ庁から部活動の地域移行の話がありスポーツ推進委員の方々にも協力をいただきたいとの話があった。新聞でも掲載されていたが地域の体育会の方々にも協力をしてほしい内容であった。しかし、実際の内容や責任問題などについて具体の説明がなく不明な点が多い。
- 学校体育の教育としての取り扱いとスポーツとしての考え方の差があり、学校教育から抜け出すことが難しいのではないかと。スポーツとしての考え方を根底から整理する必要がある。部活動を地域移行するための内容説明が不十分なまま進めることはできない。少子化で野球など合同チームで行うところもあるが地域移行の話がでてくると、新たな課題が出てくる不安がある。

#### (事務局)

- 部活地域移行については本当に悩ましい課題がたくさんあるが、子ども達のスポーツの環境を地域毎にどのように形作っていくのかというところを本当に踏み込んで考えるきっかけと捉える必要があり、第3期の計画の中でも特に一番重要な課題と捉えて、県の方もしっかりと前に進めていきたいと思っているので、色々なご意見を会の中でもおっしゃっていただいて、そうしたものを含めて地域と話をしながら、しっかりと前に進めていきたいと思っている。

#### (2)第3期スポーツ推進計画の骨子について

- 事務局から議事(2)を説明後、協議を行った。(部会員の発言は以下のとおり)

#### (田井 部会員)

- 最近、コロナになってから健康志向の方が増えており、総合クラブとさでも特に若い方の会員が増えてきている。これを契機にスポーツの実施率を上げていければいいと思う。障害者スポーツについて、高齢者施設でもボッチャなどの大会を開催したいと考えているが、現在近くの施設にしかリモートで配信していない。本来であれば、中山間地域の施設に配信すべきであると思うので、中山間地域のリモート環境の整備や実際にリモートでの取組を実施してもらうために、県から働きかけをしてほしい。

#### (事務局)

- リモートの取組につきましても、今年度も今のご意見を踏まえて取り組んでいきたいと思っている。各市町村とか地域の方にリモートの情報が届いていないということもあるので、そこも意識して今年度取り組むことや、第3期の計画については、取り組みをしっかりと情報共有できる体制をどのように作っていくのかをしっかりと考えていきたいと思っている。

### (村上 部会員)

- 地域スポーツツーリズムを受け入れる時には、スポーツ施設だけでなく多様な視点が必要。例えば宿泊施設の形態によってどのようなターゲットがいるか。練習相手の有無の視点。また、「スポーツ×防災」の取組など、防災の視点がチームビルディングの要素にもなる。
- 新聞にも掲載されたが、サッカー大会を子ども達だけで運営する事例もあり、子ども達に考える力をつける意図がある。「スポーツ施設+α」の視点が重要であり、市町村によっても「+α」の視点は異なるが、そのあたりのヒアリングなども検討を望む。
- スポーツツーリズムの受入れ実績として、コロナ禍前に比べ2020年は約5割、2021年度は約7割。今夏は、過去最高の受入れを予定しているが、コロナ禍で対応は未定。
- スポーツツーリズムの受入れは地域にとっても経済効果が大きい。黒潮町には集落活動センターが4箇所あり、お弁当を毎食頼んでおり、年間で約1万食となる。地域にとって、集落活動センターは食材が地元産を使うことが多いため、地域調達率も高くなり、地域経済の核となっている。受入れ等にも限界もあるが、県にも知恵を借りながら取り組んでいきたい

### (田井 部会員)

- 土佐市ではマラソン大会を毎秋開催しているが、マラソン大会に付随して各市町村を巡るツアーを実施できないかと考えている。ただ、スポーツクラブではそのようなイベントを企画できないため、ぜひ実施していただきたい。

### (公文 部会員)

- 障害者のスポーツについて、障がい児は移動をすることも難しい場合もあり現地に行ってスポーツを楽しめないことがある。障害者スポーツを楽しめる巡回指導等への支援があるとありがたい。教員などもスポーツにまで十分対応しきれていないなかで、支援があると子ども達がスポーツに親しめる機会が増える。ライオンズクラブが、特別支援学校を対象としたフットサルの全国大会を昨年スタートさせた。このような大会を目指せるような子ども達への支援があると良い。
- デジタル技術の活用について、「みる」ということも大事。今年は国体ブロック予選も一部競技は配信されると聞いている。配信について、どの競技がいつ、どのように配信するのか、SNSなどでの情報発信を望む。
- スポーツツーリズムについて、課題として掘り起こしなどが資料に記載されているが、県民でさえ、どこでどんな体験ができるかわからないことが多い。県としてもLINEやInstagramなどのSNSを活用した情報発信を望む。

### (葛岡 部会員)

- 校長先生に専門の先生がいなくなったからと頼まれて外部講師をしている。毎年、四国大会に行くほど生徒達が頑張って成果を出している。外部講師として県外は実費で行っている。どうしてもスポーツ=ボランティアという感覚が抜けきれないと感じる。4、5年前に県から「スポーツJAMフェスタ」の親子の競技の講師の依頼があり行ったことがあるが、県からは費用は出ず、ボランティアで行かせてもらった。そういう感覚の中でボランティアが子どもの育成・指導をしたときに責任を持たせられる。責任を持たせるのであれば、それなりに補償してあげないとその人は責任を持

って指導をしないと感じる。

- 今、中学校、高校の先生方が生きがいとして子ども達を指導しているから部活動が成り立っている。自分の家庭より学校の子供達に時間を割いて指導をしている。その環境の中で日本のスポーツで活躍している選手の方もいっぱいいると思う。その環境を変えていくとなると、いろんな障害がでてくる。一番のネックは費用面だと思う。例えば、私が今クラブで小学生のスポーツ少年団の指導をしており、去年全国で優勝した。そうしたら、中学校のチームを作らないかと言われるが、私は無理です。と答えます。なぜかという、中学校にチームを作ったときにそのチームが全国に行ったときにその費用を誰が負担するかということです。私が全部自腹で負担することは不可能です。学校であれば教育委員会がサポートしてくれる。小学校の大会は地域によっては出してくれるところもあるが、私の地域は出ない。その地域格差がある。今後、部活動の環境を考える時に非常にやりにくい場面がでてくる。子ども達のスポーツに対しての意識レベルが行政によって違うので、意識レベルに基づいて部活動を下ろしていったときにものすごく障害が出てくるのではないかと感じている。子ども達が活躍できる現場を作っていただいたいと思っている。

#### **(北村 部会員)**

- 障害者スポーツへの参加拡大については、巡回指導を行うことも一つの案と思う。障害者スポーツについて、学生が卒業するタイミングでスポーツから離れている。重度の障害者に関しては、施設から運動に関する情報がもらえるが、社会の中で生活をしている方には情報がない。また、このことを感覚的には分かっているが、数字的には評価できない状況となっている。そのため、環境づくりの項目の中に、実態の把握が必要ではないかと考えている。

#### **(事務局)**

- 障害者のスポーツの活動について、課題があるというふうに申ししておりますが、実状は漠然として捉えられていないところも多々ありまして、実際のスポーツの実施率の状況も、調査の方法も確定していない状況なので、本当に実状を踏み込んで把握していく必要はあると思っているので、何らかの仕組みとして数字的なものが集約できる場所を市町村とも話をし捉えていきたいと思っている。第3期の計画に向けてしっかりと考えていきたい。

#### **(田井 部会員)**

- 近隣の特別支援学校の卒業予定者に対して、卒業後のスポーツ情報の受け取り希望の有無についてアンケートを実施した。学校を卒業した後にスポーツから離れるケースが多いと感じているので、スポーツ活動の情報発信には力をいれたい。また、保護者との関係もつくる必要がある。最近、総合型スポーツクラブでのイベントの案内を出したところ、家族で来てくれたことがあった。また、地域の施設で専門的な指導を受けた方から非常に良かったとの声をいただいたこともあり、これからお知らせしていきたいと考えている。ぜひ県からも情報発信をしてほしい。

#### **(北村 部会員)**

- 県障害者スポーツセンターでも特別支援学校の卒業予定者全員（100人？）に対して、卒業後のスポーツ情報の提供希望の有無のアンケートをした。返信用封筒を入れて配布したが、返信率は約

20%程度であった。卒業後は、スポーツより生活を安定させることが大事であり、どのようにアプローチすればスポーツにも振り向いてもらえるかが課題である。

#### (事務局)

- 情報の発信、共有については大きく課題があると思うので、障害のある方だけでなく、多様な方がそれぞれの地域でスポーツ活動を始め、続ける、さらに充実させるためにも、情報をうまく伝え、いろんなところからその情報が得られるよう、もう一段工夫をしていく必要があると思うので、県としても一緒に考えていきたいと思う。

#### (村上 部会員)

- 若い人が本業として関わることを意識することが大事と思っている。NPO 法人として人材確保の難しさを感じ、高校生向けの人材確保の活動も行ったが成果は出ていない。大学生が関わってくることが多く、インターンシップ的に関わってくると良いが、就職まで結びつかない。本業の人材がいると、事業も進みやすいと感じている。

#### (事務局)

- 若者の参加ということも明確に書き入れていないというところがありますし、雇用に繋がるというところでは、国の計画の「スポーツの産業化」になるかと考えている。スポーツ活動をどのように増やしていくことが産業化に繋がるのかというところは、第3期の計画の中にも書くこと、また、具体的な対策を考えていくことにご意見をいただきましたので、計画の策定に生かしていきたい。

#### (前田 部会長)

- 学生を見ていると、若い世代が使用するツールへの情報発信が不足していると感じている。スポーツ課の作成したオリパラのレガシーに関する動画がサイトで流れているが、閲覧回数が50回ぐらいとなっている。もっと、海外や教育等の領域への情報発信が必要と考える。
- 運動部活動の地域移行については、学生に聞くと指導をしたいと考えている学生はたくさんおり、ある種のアルバイトのようにスポーツの指導等をする事で対価を得る形がとれば、地域で大学がスポーツを指導するという良い形ができてくるのではないかと思う。仮に指導ができなくても、一緒にプレーをする等はできるのではないかと感じている。

#### (事務局)

- その部分については、民間の団体の協力を得て調査をお願いするなど、民間との連携をしっかりとするという意味では、計画の骨子の「6 産学官民の連携によるスポーツをささえる体制の充実」のところ具体的な取り組みをしながら考えていくことになるので、ご協力をお願いしたい。

#### (事務局)

- 「子ども」というところが、クローズアップされているが、中高年のスポーツの活動、生きがいづくりというところにも、当然力を入れる必要があると思っているので、今後の計画の書き込みについても、そうした視点もしっかりチェックをしていただきたい。また、骨子の中には国が示

す女性の記述が入っていないので、何か視点などで抜け落ちているところがないか、また、もう少し強く書かなければいけないといったことも合わせてご意見をいただくとありがたい。今後、2、3回の会議で詰めていくので、今後お気づきになられたことをご意見としていただきたい。

#### **(葛岡 部会員)**

○大人に関する事で、コロナ禍で毎日1万歩歩いていた高齢者の方が肺炎になり、医療センターで一週間隔離状態。コロナではないが、感染予防のために一週間隔離されて、自宅に帰ってきたら全く動けない。体中が痛くて、奥さんが介助しないとトイレにも行けないという方がいました。その方は、体が悪い訳ではなくて、体が硬くなっていた。それに対して、奥さんと娘さんに私が指導しまして、ストレッチと少しずつ体を動かして、今では毎日3000歩自分で歩けるようになった。運動は、日頃やっていないことを急にやることは危険行為。安全、安心の中で長く体を動かすためにも、この部分は非常に重要だと思うので、怪我をしないで長く続けられる環境づくりは大事だと思う。

#### **(公文 部会員)**

○毎年3月8日は国際女性デーで、昨年度は小学生と同時開催でママさんのフェスティバルを開催した。また、他の機会でも応援に来てくれる保護者を対象に、子ども達の試合の合間を利用して開催している。景品も日用品を準備して、子育て中のママさん達が大会に入りやすくし、スポーツを始めるきっかけ作りにもなっていると考えている。

#### **(田井 部会員)**

○子ども達がトップ選手とふれあう機会がほとんどない。東京オリンピック・パラリンピックの開催をきっかけとして、アスリートと子どもたちとの交流イベントを実施できればと考えている。

#### **(北村 部会員)**

○スポーツを通じたまちづくりについて、愛媛県では自転車専用のブルーラインが引かれている。このような健康増進に繋がるような仕組みを高知県でも実施できればと考えている。

#### **(事務局)**

●サイクリングのコースについては、本県でも「ぐるっと高知サイクリングロード」の整備をしたが先ほどから出ておりますように、情報の発信や広報にまだまだ改善の余地があるので、しっかりと情報の発信をしていきたいと思う。

### 3 閉会